

特集コラム 星槎グループのコロナ禍への対応と課題

## 総合キャリア支援センターの設立経緯とめざすもの

千 田 光 久

令和2年11月17日に公表された厚生労働省と文部科学省の共同調査による「令和2年度大学等卒業予定者の就職内定状況(10月1日現在)」は、改めてコロナ禍における就職状況の厳しさを痛感させる数値であった。公表された就職内定率69.8%という数値を受け、新聞報道では「コロナで5年ぶり70%割れ」「リーマン後に次ぐ下落幅」などと報道がなされ、新型コロナウイルス感染症のパンデミックがわが国の大学生の就職に暗い影を落としていることを否応なしに突き付けた。

本学においても、学生が新型コロナウイルス感染症によって学びを継続していくことに窮していることや就労への影響を受けていることが、学費減免申請者数や総合キャリア支援センター(英文名称: Seisa Accessibility and Career Support Center、略称: SACS(サククス)センター。以下、SACSセンターという)への相談状況からうかがうことができる。このような状況から、SACSセンターとして、一層、学生支援に努めなければならないと認識している。

では、SACSセンターとして何ができるであろうか。このことについて、発足の経緯、組織の概要、将来的に何をめざすかという順に述べ、SACSセンターがめざす方向性を言及してみたい。

### 1) SACSセンター発足の経緯

発足は、2019年4月である。発足前に準備会議が何度か開催されたわけであるが、その際に次のようなコンセプトが確認されている。

- ①主として以下の本学学生を対象とする「キャリア支援」を行う  
学修に「困り感」のある学生、中高年の学生、子育て中の学生など。
- ②通信制大学である本学の特色ある学びをベースに「出口」に繋げる  
学修に困り感のある学生への就労支援、多様なインターンシップの実施、共生社会の実現に貢献できる人材の受入先開拓(SDGsの理念を踏まえた就労先の開拓)など。
- ③中高事業部等星槎グループ進路指導部との連携によるシームレスなキャリア支援を行う  
大学から中高事業部へのフィードバック(中高事業部の強みとして反映させる)など。

### 2) SACSセンター組織の概要

学生の支援ニーズに対応するために、SACSセンター内に以下の3室を設置している。

- ・キャリア発達支援室

認知特性の不安、合理的配慮の申請、自分の能力の活かし方、社会活動への参加の仕方などについて支援を行う。

- ・キャリアカウンセリング室

学修の進め方がうまくいかないとき、人間関係や生き方などで困ったり悩んだりしたときなどの相談に対応し、学生を支援する。相談コーディネーターが専門のカウンセラーになぎ、カウンセリングなども行う。

- ・キャリアサポート室

キャリア形成に向けて、今後の進路や就労などの分野を中心に支援を行う。具体的には、外部機関とも連携し、仕事に関する様々な相談を受け付け、求人情報の提供、適性診断、エントリーシートや履歴書の作成等の支援を行う。

### 3) SACS センターがめざす方向性

前述のとおり3室を核にして学生支援に努めているが、今後、SACS センターがめざすべき方向性について、その設置目的を明示しながら述べることにする。

SACS センターの設置目的は大学規定で「総合キャリアセンターは、本学学生の総合的なキャリア支援に資するため、必要な業務を行うことを目的とする。」と明示されている。当たり前のことを述べるが「学生のキャリア支援のためのSACSセンター」であることを常に根底に据えて、運営をしていくことが肝要である。学生ファーストであることを忘れてはならない。

本学は通信制の共生科学部と大学院教育学研究科、通学制の大学院教育実践研究科で構成されており、多くの学生は通信制という学びの形態により全国各地で学んでいる。学生の居住地は、北は北海道、南は沖縄県と広域である。学生が通信制で学んでいること、広域で学んでいるということを念頭にSACSセンター業務を展開していかなければならないと考える。このことを踏まえながら、学生のキャリア支援に資する機関としてのSACSセンターがめざす、今後の方向性を次のように提言したい。

- ①通信制大学での学びでは、学生が孤独感や不安感によって、学びの継続を断念してしまうことも懸念される。学びの継続を支援していくために「オンライン相談」の充実を図っていくこと。
- ②就職を希望している学生の就労ニーズに応えられるように、ハローワークや自治体、企業等とつながって「情報交換」できる環境を整えていくこと。
- ③学生が全国各地で学んでいることから、星槎グループに属する各地の学習センターと「連携強化」をしていくこと。このことにより、学習センターと情報共有しながら、適切な学生支援を進めることができると考える。この連携は、大学側からの一方通行の支援ではなく、学習センターからの支援ニーズに応じていく双方向型支援である。SACSセンターとして学習センター主催の研修会への講師派遣などが考えられる。

SDGs（持続可能な開発目標）の「誰一人取り残さない」というスローガンを胸に刻んで

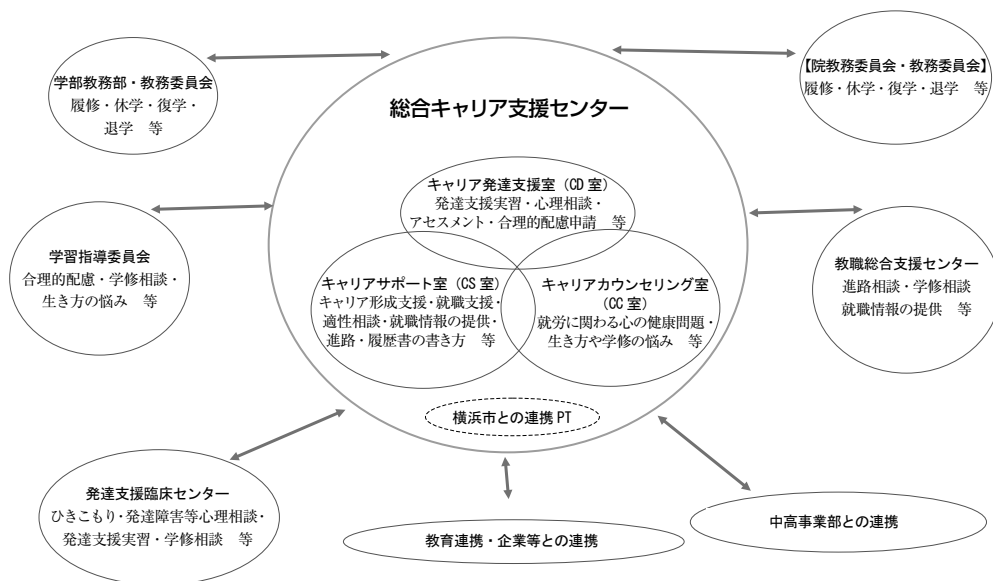


図 総合キャリア支援センターと他の部・委員会・センター等の連携

業務に取り組み、SACSセンターのめざすものを具現化していきたいと考える。

そのためには、学内、学外においての連携が重要である。上図に示すような連携を構築し、学生の総合的なキャリア支援の充実に資することをめざしている。